

4月23日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は国語と算数の2教科のテストと、家庭での過ごし方や学習時間を問う児童質問調査を実施しています。結果ができましたので、概要についてお知らせします。

学力調査（国語科・算数科）

国語科は全国平均を大きく上回る結果、算数も全国平均を上回る結果となりました。少人数を生かした丁寧な指導に日々取り組んでいる成果がある反面、課題となる面も見えてきています。本校は少人数ゆえに一人一人の結果が全体結果へ与える影響が大きくなることを前提にして、国語・算数それぞれの教科について、本校の子どもたちの優れているところや課題となるところについて分析します。

国語科



国語科の問題は、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(2) 情報の扱い方に関する事項」、「A. 話すこと・聞くこと」、「B. 書くこと」、「C. 読むこと」の5つの内容で構成されています。「(3) 我が国の言語文化に関する事項」からの出題はありませんでした。

漢字や語彙力については、高い正答率でした。日常の授業や家庭学習を通して、基礎的な語彙・漢字の定着が見られます。また、読んで考えを書く力を見る問題の正答率も高く、「文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書く」問題では、全員が正答できました。他教科でも、授業の中で自分に結び付けて考えをまとめたり表現したりする学習を積み重ねており、日常の授業を通して、読んだ内容を理解し、自分の経験と関連付けて文章で表現する力がついてきていると考えられます。また、すべての問題に全員が空欄にすることなく何らかの解答をしており、難しいと感じられる問題に対してもあきらめずに粘り強く考え、取り組んだと思われます。

しかしながら、「文章を読んでその文章の工夫を説明する問題」では、課題が見られました。文章全体の構成を把握することが難しかったようです。今後の課題として、長い文章を構成に着目して読み取ったり、自分が文章を書くときに構成を意識して書いたりする学習を積み重ねることが必要であり、取り組んでいきたいと考えています。

算数科

算数科の問題は、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」の4つの内容で構成されています。

観点別では、思考・判断・表現で高い正答率でした。理由を説明したり考え方を表現したりする力が育っていることがわかります。帯グラフを読む問題や表を読み取る問題、記述式問題でも高い正答率で、データを読み取り活用する力や、なぜそうなるかを言葉や式で説明したりする力がついています。

しかしながら、「割合」の問題で課題が見られました。割合のグラフに載っている比較量と割合から基準量を求める問題では、全国平均を下回る結果となっています。「イシガメが14匹います。イシガメの数は動物園全体のカメの数の20%です。カメは何匹いますか?」という問題の解決においては、「全体のカメの数」「カメは何匹」が基準量であることを捉えることが前提となります。問題はテープ図にも表されていましたが、誤答はそれらを読み取って数量関係をとらえることができず、機械的に数値を拾い上げ式を立てているか、問題文の初めに出てくる数値が基準量だととらえ間違えていることが考えられます。テープ図・数直線・関係図等を用いて、まず基準量が何かをとらえ、数量関係を正しくとらえる力をつけるようにしていきたいと思えます。

割合の問題に限らず、図を用いて考えることは、数量関係をとらえやすくし、立式をしやすくします。低学年のうちから、図を用いて考える習慣をつけていきたいと考えています。

児童質問調査

児童質問紙では生活や学習、自分自身のこと等77項目にわたる質問事項がありました。
ここでは、いくつかの事項について取り上げます。



【全国の数値を上回った質問】

・「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。」

本校では、全員が当てはまると回答しています。全国平均で当てはまると回答している児童は70%です。国語では「話すこと・聞くこと」や「記述式問題」、算数では「思考・判断・表現」や「記述式問題」で高い正答率となっており、その背景には自由に発言できる学級の雰囲気や間違いを恐れない風土、少人数による対話的な学習が大いに関係していると思います。子どもたちの様子を見てみると、発言や行動に対して不安を抱いている様子はなく、クラス内での心理的安全性が高まり、自分らしさを出しやすい環境になっていると思います。

・「5年生までに受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器を使用していましたか。」

本校では、全員が週3日以上使用していると回答しています。全国平均で週3日以上使用していると回答している児童は69%です。ICT機器を活用した授業が当たり前のように定着している様子が、児童質問紙からの結果からもわかります。ただ、その使用目的を分析すると、情報収集に使用している割合は高いですが、情報を整理したり発表に活用したりしている割合は高くありません。現在は、ICT機器を主に検索や入力に使っていますが、ICT機器を使って情報を比較したり分類したりすることで、学力調査の課題でも見られた情報整理力の課題改善につながると考えます。

【全国の数値を下回った質問】

・「普段、家で1日あたりどれくらいの時間、スマートフォン等のSNSで動画視聴などをしますか。」

(SNS等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く。)

2時間以上利用している児童の割合は全国平均よりも高いです。学校でのICT機器利用にも慣れている分、デジタル環境に慣れているという面もあります。しかし、SNSが娯楽やコミュニケーションの中心となっている可能性があります。また、別の質問では、読書時間が全国平均より下回る結果となっており、家で本を読んだり、SNSを活用して動画視聴だけでなく学習にも活用したりする時間を取ることが必要であると考えます。

・「学校の授業時間以外に、普段どれくらいの時間、勉強をしますか？」

(学習塾で勉強している時間やSNSで学習する時間も含む)

全国平均よりも、学習時間が低い数値となりました。また、家庭学習の習慣は個人によって大きな差が見られました。

中学校進学を見据えると、家庭学習時間の長さも大切ですが、家庭学習の内容も重要になってきます。教科数が増加し、定期テストもあるため、小学生のうちから自分自身で学習の目的をもち、学校からの宿題＋自分で主体的に取り組む学習の両輪で取り組むことで、考える力を伸ばしていくことが大切であると考えます。

全体を通して

今回の調査では、国語・算数ともに全国平均を上回る結果となりました。また、「学校が楽しい」「自分にはよいところがある」と感じている児童が多く、安心して学べる環境の中で子どもが成長していることがわかりました。一方、これからの時代に必要とされる、「文章構成や数量関係を捉えて読み取り、根拠をもって考える力」をさらに伸ばしていくことが課題として見えてきました。「なぜ?」「どうしてそう思った?」といったように常に問いかけることで、子どもたちがよく考え、その自分の考えを説明する学習活動を積み重ね、力を高めていきたいと考えています。

引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりに、ご協力をお願いいたします。